



## 一貫コース通信

### 『 一年の計は元旦に在り 』

あけましておめでとうございます。

新春を迎え、令和4年が災害(災)にみまわれる事無く、生徒諸君に取って大きな実りある年に成ります様、心から祈念します。

我が国には『一年の計は元旦にあり』と言う文化があります。この事は、言うに及ばず年が改まる節目の時に、決意を持つ大切さを教えています。ヒトの能力差など一般社会が言う程大きくはありません。ヒトの成す事、万事は決意と努力の差が必ず結果として現れます。世間は事後に、結果≒才能と言っているに過ぎません。繰り返しますが、決意と計画、そして実践(努力)なくして結果などある筈が無いのです。これは、ヒトが拘<sup>かかわ</sup>る物事一般に関する理(ことわり)と言って良いでしょう。生徒諸君も、令和4年を充実した年にする為、大きな目標と計画を立て実行して下さい。

昨年はコロナ禍の最中 2 度目の東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。TV 中継を介し、多くのアスリートの活躍を目の当たりにし、大きな感動を貰ったに違いありません。同時に彼等の活躍の背後に在った、努力と精神的葛藤との格闘の日々も解った筈です。オリ・パラの映像は、多くのアスリートの内面を映像と言う手段で視覚化したのです。

スポーツの祭典に続き、コロナ禍で一年延期された“第18回ショパン国際ピアノコンクール”が開催されました。若手ピアニストの登竜門でもあり、多数の日本人エントリー者も居て、報道にも取り上げられました。結果は反田恭平さんが同率2位、小林愛実さんが4位に入賞する快挙でしたが、覇者のブルース・リウさんは東洋系カナダ人でした。演奏の素晴らしさは、ネットを介し聴く事が出来るので、是非時間の許す時に聴いてみて下さい。私は、音楽が好きなので、これまでに沢山のピアノ演奏(それ以外の音楽も)をライブで聴いていますし、同様に作曲家や演奏者に関する書物も読んで来ました。音楽は国民性が伴う為、クラシック音楽は日本ではメジャーに成り切れていません。其の為、中々音楽家の背景を知る事が難しいのですが、決してスポーツ界に劣りません。実の所、1位を射止めたブルースさんの師は、ベトナム人ピアニストのダン・タイ・ソン氏です。第10回のショパンコンクールの覇者で、現在はカナダのモントリオールに在住しています。彼は、丁度ベトナム戦争の物資困窮の最中、ハノイの自宅で紙に書いた鍵盤で練習したヒトなのです。こういうヒトが教えたのです。

F・ショパンの生涯は実に波乱に富んでいます。いつも悲運に見舞われる祖国を思い、その運命は国と共に在りました。祖国ポーランドには戻れませんでした。国民を鼓舞する雄々しい曲を沢山創りました(『革命』・『軍隊ポロネーズ』…等)。美しさゆえに、激しい旋律と背景にある闘志は中々表面には表れ難いのですが、とても男性的(元々男性ですが)で強い曲が多いのです。

